

連合 徳島



JTUC-TOKUSHIMA

NO.182 (2009年2月18日)

発行人・川越敏良 編集人・小松義明

日本労働組合総連合会徳島県連合会

〒770-0942 徳島市昭和三丁3丁目35-1

徳島県労働福祉会館6F

088-655-4105 Fax 088-655-4113

E-MAIL info@tokushima.jtuc-rengo.jp

すべての働く者の連帯で、ともに働き暮らす社会をつくろう

当面の
日程

2月19日(木)第3回五役・第3回執行委員会 13時30分

20日(金)2009春闘共闘会議第2回総会 13時30分

徳島地協第8回委員会 18時

23日(月)部落解放地方共闘会議幹事会 18時

25日(水)第29回部落解放・人権地方研究集会

13時~(徳島市文化センター)~26日

「効率と競争最優先から公正と連携を重んじる社会へ」 —2009春季生活闘争開始宣言集会—



県春闘共闘会議は2月6日夕、労働福祉会館で2009春季生活闘争開始宣言徳島集会を開催し、約150人が参加した。

主催者を代表して川越議長(連合徳島会長)は「今春闘は、単に賃金要求だけでなく、企業の社会的責任を含む日本の経済社会のあり方や方向性を問い、雇用労働環境のセーフティネットを構築する制度政策という、政治闘争と制度政策闘争と春季生活闘争の三位一体の闘いが求められている。09春闘は、日本経済の立て直しの推進力となる内需拡大、特にGDPの6割を占める個人消費を拡大する

ために、急激な物価高による可処分所得の低下に歯止めをかけるために、賃金カーブの維持、消費者物価への対応、実質賃金の改善という、三段重ねの要求で労働側への成果配分の実現をめざす。また、中小の格差問題、パートタイム労働者等の非正規労働者の処遇改善についても中小共闘、パート共闘を中心に運動を展開していく。さらに、ワーク・ライフ・バランス、男女間の賃金格差問題へのアプローチ、非正規労働者の正規化などの課題についても議論を進めていく。いずれにしても、しっかり要求を出して、交渉をしない限り、展望も見通しもない。公正・公平な『労働』、安心と安全、信頼の社会を構築していくため、『危機こそチャンス』を合言葉に社会に大きなインパクトを与える運動の輪を広げよう。県春闘共闘に結集し、全力で闘い抜こう」とあいさつ。

続いて、小松事務局長より「総合生活改善に向けた中期的目標を設定し、政策

制度を柱とした景気回復・雇用確保の実現、賃金は中

小・地場組合やパート労働者等の『底上げ』に全力を挙げるとともに、不払い残業撲滅などの社会的運動を進める。また、賃金カーブ維持分に加え、物価上昇をベースアップに含めた生活維持分の確保に重点を置いた要求目安とする。賃金カーブ維持分の算定が困難な組合は9,000円以上とする。(賃金カーブ維持分4,500円含む)などの方針提起を受けた。

その後、民間大手部会(峰行・JP議長)民間中小(平井・中小対策本部長)官公労(藤岡議長)地域部会(佐藤・北部地協議長)からの決意表明に続き、2009春季生活闘争・闘争宣言(案)を全体の拍手で採択した。

最後に、川越議長の音頭で団結ガンバローを三唱し、集会を閉じた。



「何でも労働相談ダイヤル」 で街宣行動を実施!

2月5日夕、JR徳島駅前で第1次春闘キャンペーンの一環として、2009春闘の取り組みや「何でも労働相談ダイヤル」(2/9~15)の実施をPRする街頭演説とビラ・ティッシュまき行動を実施した。

街宣では、平井・中小労働対策本部長と川越・連合徳島会長がマイクを握り、「一人で悩まず、おかしい?と思ったら『何でも労働相談ダイヤル』電話をかけてください。専門のスタッフが相談に応じます」と訴えた。この間、動員者30人は、「労働者の使い捨てはゆるさない」と書いたビラやティッシュ1,000枚を歩行者らに配布した。



